

当院で精度の高い
細胞診検査を
受けませんか？

細胞診検査
とは…？

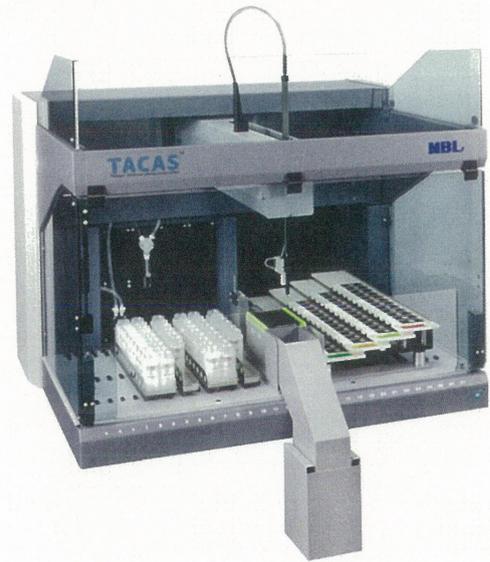
がん細胞をみつけたす
検査のことです。

最新がん細胞診検査機器を県内初導入

病理検査科 主任 田近 洋介

最新機器導入

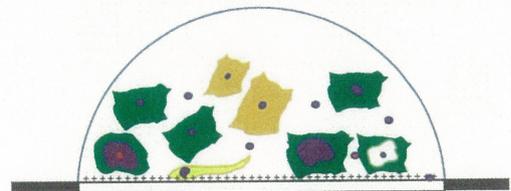
日本の死因1位は依然、がんであり健診は非常に大きな役割を果たします。当院は日本臨床細胞学会認定施設、同教育研修施設、日本病理学会研修登録施設であり、細胞診検査には細胞診専門医2名(内FIAC1名)、細胞検査士、国際細胞検査士2名(内CMIAC1名)が細胞診断業務に従事しています。さらに、平成27年4月より、最新法である液状化検体細胞診(liquid based cytology;LBC)法(以下LBC法)を導入し、自動液状細胞診標本作製装置TACASを設置いたしました。県内初導入で、関西・中部地区でも2台目と言う最新の高度先進医療装置です。



LBC法のがん細胞検出原理

検診や検査において各臓器より得られた検体は、液状化され細胞浮遊液となります。従来法では採取された細胞の数パーセントしか回収されませんでした。LBC法では100%回収されます。まず、この浮遊液をスライドガラスに滴下させます。液中の各細胞成分は重力によって比重の重い細胞から先に沈下します。この時、がん細胞は最も比重が重く先に沈降し標本となるため、がん細胞を多く含んだ標本作製が可能となります。また、細胞の荷電により重積の少ない均層標本ができ、がん細胞以外の細胞は洗い流され、不適標本を減らし、初期の微小・少量のがん細胞の発見が確実に出来るようになり、同時に細胞診とHPV-DNA検査ができるようになりました。

塗沫時溶液内イメージ図



撥水加工ガラス及びTACAS™オリジナルコーティングによる
電荷(+)と細胞電荷(-)による細胞塗沫

日本の細胞診断技術は世界トップクラスであり、がんの検出率も高率で精度の高い検査ですが、LBC法はさらになんかがんの検出率を向上させる事が報告されております。あつてはならないがんの見逃しや誤診リスクを最大限減少させるため、健診や検査をするのであれば当院でLBC法による精度の高いがん検診、精密検査を受診されることをお勧めいたします。

お問い合わせ先

済生会富山病院健康管理センター

☎076-437-1133 (平日14:00~17:00)